

度會郡

宇治

田部多

乃

城田木

湯田多

伊蘇曾

高田

箕曲美

乃

沼木奴

繼橋都

木二見

美布多

伊氣

伊驛家 阳田比奈多

〔三國地志九〕

伊勢桑名郡 鄉名

野代

和名乃之

按今村名ニ存ス

桑名

和名久波

按今驛名ニ存ス

額田

和名久

按今村

多

今廢

加

按今村

名ニ存ス

尾津

和名乎

按今村名ニ存ス

熊口

和名久

知今廢

按今所在詳ナラズ

已上

和名抄

ニ出ル處ナリ

香取五箇鄉

略中

按今村名ニ存ス

五箇ハ

香取南

松木上

逆手ナリ

今松

木以下長島ニ屬ス

深矢部鄉

按大系圖ニ出ル

今村名ニ存ス

〔古事記傳中景行〕倭建命到坐尾津前一松之許、先御食之時所忘其地御刀不失猶有爾御歌曰袁波理

神名帳に同郡尾津神社もあり、此地なり、今は地の名も社の名も遺らず、たゞ戸津村と云があるを、其と語傳へたり、戸津村と云ありて東西方、多度神社より廿町ばかり東南の方に溝野村

遡多陀邇牟迦幣流遠都能佐岐那流、比登都麻都阿勢袁比登都麻都比登邇阿理勢婆多知波氣

麻斯袁岐奴岐勢麻斯遠比登都麻都阿勢袁

〔古事記傳二十八〕尾津前此なる御歌に依に津は清て讀べし、和名抄に伊勢國桑名郡尾津津平郷

神社なりと云、戸津を尾津なりと云、此なる倭建命の御故事をも語り傳へたり、其地美濃より

伊勢に通ひし古道にて、今も然なり、美濃の多藝郡より石津郡を経て至る處にして、美濃との

國境より一里あまり南なり、此あたり今は海邊

と云傳へたり、まことにさぞあれども古はやがて海邊にて、尾張

の津島より渡る泊なりしよと云傳へたり、まことにさぞあれども古はやがて海邊にて、尾張

〔日本書紀七〕四十年十月癸丑、日本武尊發路之○中日本武尊便移伊勢而到尾津、昔日日本武尊向東之歲停尾津濱而進食、是時解一劍置於松下遂忘而去、今至於此劍猶存、